



加  
467  
8



頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

菜蔬

け部ふの野菜  
苑蔬のをぐひとるを



○蕪菁の食と消し氣と  
 け嗽とやひつひのふとんは  
 中と通し人々をささるる  
 かさしひ  
 ○菜菔の氣と消し食と消  
 し痰咳と治し中とわさ  
 め大小便と利と  
 ○芥の頭中の風熱と消  
 酒後の熱とさる大小  
 腸と利し血脈とあると益  
 ○葱の汗と殺し風と去



頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

小べんとほげじ魚肉の毒  
 ところし中ぬわくめん  
 かり瓜とむ  
 ○葎の胃熱とのぞれ中と  
 わくめ虚とらさひん  
 のつこに  
 ○蒜の脾胃小飯中と  
 わくめくらん腹中やと  
 わくめ瓜と  
 ○薤の水氣とら中とわ  
 たらめ不足とらさひん  
 さくらり腹にうゝ氣瓜  
 とら  
 ○波稜の酒毒と解  
 胸とひらけ氣とら  
 とら



○胡葱の中とわくめ  
 とら食瓜清し虫  
 とら  
 ○芋の腸胃とゆき肌と  
 みら熱とら湯とら胃  
 とら宿血とら  
 ○薯蕷の虚とらさひ  
 氣力とほし後とら  
 腰のつこ  
 ○牛房の中風のつこ脚  
 氣風とせんきふは面目  
 とら  
 ○胡菘の氣瓜とら中と  
 わくめ腸胃とら  
 藤とらとらとら瓜とら  
 に益ありて損か



○苣荬の胸膈とひくと筋  
骨とくくく目瓜のそく  
くみ乳汁とつじひと  
ころと  
○芥の腎經の邪氣とど  
きよめせんと活一胃氣  
のうき膈と利一五散を  
利と  
○薺の肝と利一中とや  
つげ胃氣ま一そくそ  
利と  
○落の葉のわひひてひら  
と登の煮てくく一  
款をと和劑同くゆに  
わやする事多し  
○藜荷の蟲よあう沙虫  
蛇毒と解と多くくくど  
脚に利あしど  
○苳の氣とちきひ熱  
のどれ九散とつじ大小腸  
と利一癢と治と  
○獨活の痛風と活一中風  
湿冷逆気皮膚のあし  
足ひさつら活と  
○瓢の脹と消一虫と  
一痔下血と活一血山崩  
赤白の帶下と治と



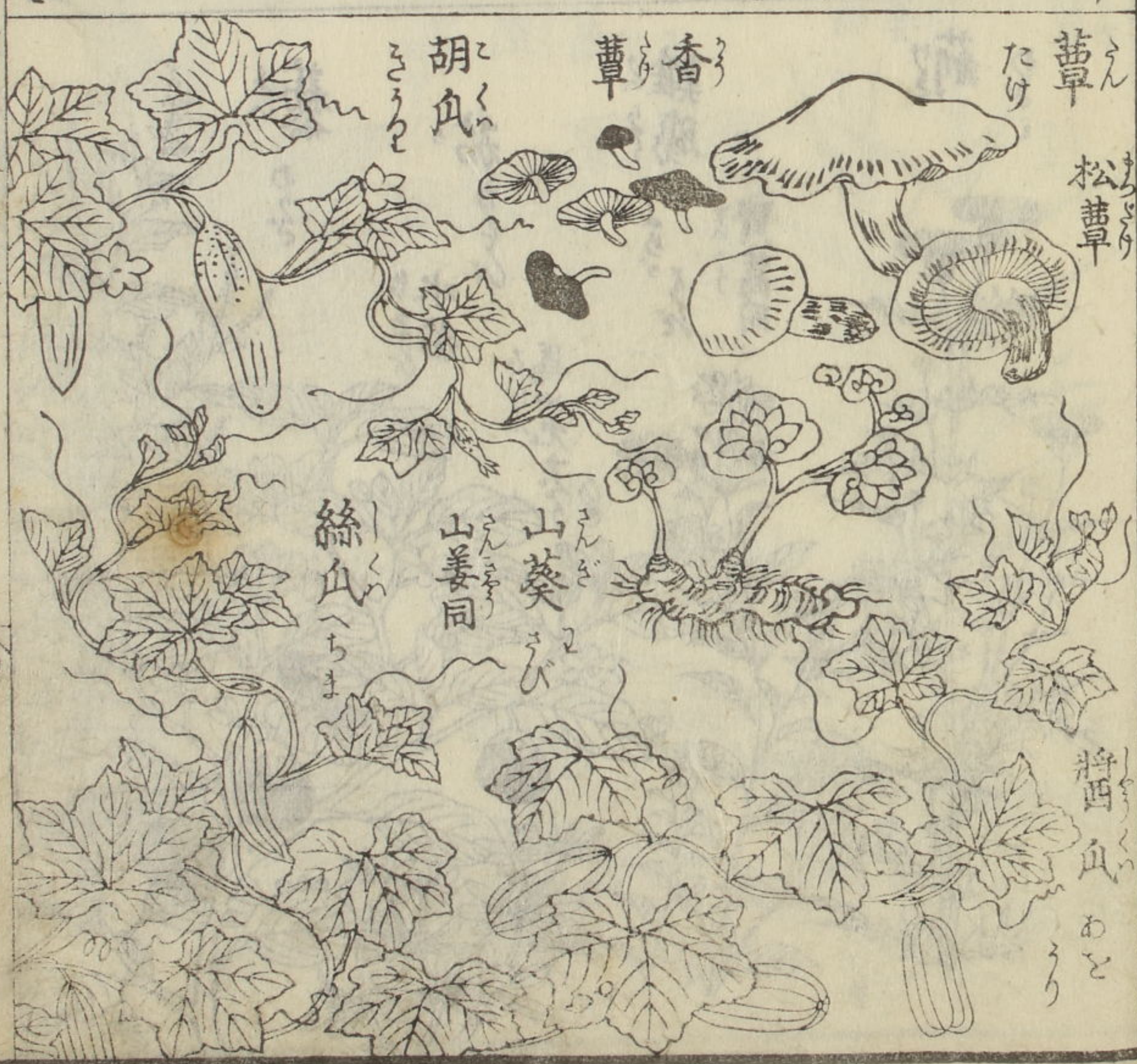
○落の葉のわひひてひら  
と登の煮てくく一  
款をと和劑同くゆに  
わやする事多し  
○藜荷の蟲よあう沙虫  
蛇毒と解と多くくくど  
脚に利あしど  
○苳の氣とちきひ熱  
のどれ九散とつじ大小腸  
と利一癢と治と  
○獨活の痛風と活一中風  
湿冷逆気皮膚のあし  
足ひさつら活と  
○瓢の脹と消一虫と  
一痔下血と活一血山崩  
赤白の帶下と治と



○瓠の口中のくまをい  
と治し水乃瓜利しん  
熱とろ心肺とろろを  
○瓜いとて小便とつじ  
渴とろ熱とのぞれ大  
腸とゆるくと羊角瓜  
○冬瓜の小便と利し渴  
とやめ氣とすしひのつ  
とのぞれ熱とろろ  
○草の氣瓜すし風を  
血とやろ地ふ生とろ  
と菌とろ木に生とろと  
草とろ  
○胡瓜の熱とろろを  
湯瓜解しろろと利と  
小児ふいこ



○醬瓜の水乃瓜利し中  
とろろ瓜のくまを  
○絲瓜の皮とろりてこ  
とろろ腫のわろ瓜とろ  
と熱とのぞれ腸と利と  
○山葵のひのろのつ  
と治し食とすめひの  
を利し瘡とひろく  
○茄の血とろんとつこ  
とろ腫と消し腸とゆる  
くし瘡とろ銀茄とろ  
かをびあり  
○雞腸の毒腫と治し  
まろいなるをろろふ  
人ふ益あり  
○煎の宿血とやろ胃と



却した食とくく吐血  
 血血とくめ熱とくく  
 ○ 藜の虫とくく  
 へいむとくく脾胃虚  
 寒の人ふ用へく  
 ○ 馬苋つんびやうとく  
 血とくくとくく清  
 腸とくくとくく女  
 くく  
 ○ 薑の胃とくく血とく  
 風邪とくく菌の毒  
 とくく神明ふ通とく  
 ○ 薑陸の又とくく  
 水氣とくく  
 わくたりの人と寒と  
 食とくく



○ 藜の消渴とくく血と  
 ぐくく消とくく癰  
 とくく瘡とくく瘡  
 せくく小兒よのむく  
 ○ 藜葉の平ひくく悪  
 瘡持愈とくく小血とく  
 乳汁とくくとくく女  
 ぐくく  
 ○ 蒲英の乳癰水腫とく  
 けくく食毒とく  
 一淨氣とくく  
 ○ 藜の熱とくく水とく  
 和とくく不とく  
 かんあり  
 ○ 狗脊のせんまいあり倍  
 むくくとくく氣とく



治一帯下とく  
 ○ 蓴(腸胃)のり(氣)瓜  
 へん(嘔)やめ(下)焦(と)安(ど)  
 ○ 辨(へん)の(る)る(る)り(業)  
 へ(用)く(膈)噎(逆)と(治)を  
 ○ 瓢(ひょう)の(る)る(る)り(瓢)  
 犀(同)橋(肉)と(も)瓢(と)え  
 ○ 芝(い)渴(と)や(り)人(の)飲(及)  
 せ(ま)し(神)の(し)智(と)は  
 氣(と)と(と)と(と)と(と)と(と)と  
 ○ 鹿(角)の(風)氣(と)と(と)と(小)  
 児(の)骨(蒸)勞(熱)と(治)し  
 麵(の)根(と)解(を)  
 ○ 石(花)の(上)焦(の)浮(熱)と(去)  
 中(の)虚(寒)と(と)と(と)と  
 ○ 昆(布)の(水)を(瓜)治(し)面



一帯下とく  
 ○ 蓴(腸胃)のり(氣)瓜  
 へん(嘔)やめ(下)焦(と)安(ど)  
 ○ 辨(へん)の(る)る(る)り(業)  
 へ(用)く(膈)噎(逆)と(治)を  
 ○ 瓢(ひょう)の(る)る(る)り(瓢)  
 犀(同)橋(肉)と(も)瓢(と)え  
 ○ 芝(い)渴(と)や(り)人(の)飲(及)  
 せ(ま)し(神)の(し)智(と)は  
 氣(と)と(と)と(と)と(と)と  
 ○ 鹿(角)の(風)氣(と)と(と)と(小)  
 児(の)骨(蒸)勞(熱)と(治)し  
 麵(の)根(と)解(を)  
 ○ 石(花)の(上)焦(の)浮(熱)と(去)  
 中(の)虚(寒)と(と)と(と)と  
 ○ 昆(布)の(水)を(瓜)治(し)面



くろくち  
 ○苔菜の乾苔  
 こもつひり  
 うし痔ちらんを  
 づきと治す  
 ○木耳の氣よま  
 しぬとわす  
 こころづきとつば  
 ー痔と治す  
 ○草薺のこころ  
 あり黄薺と  
 つい又野老との  
 味にがしとく疝  
 氣のじととら  
 とあり



頭書增補訓蒙圖彙卷之十八

果蔬

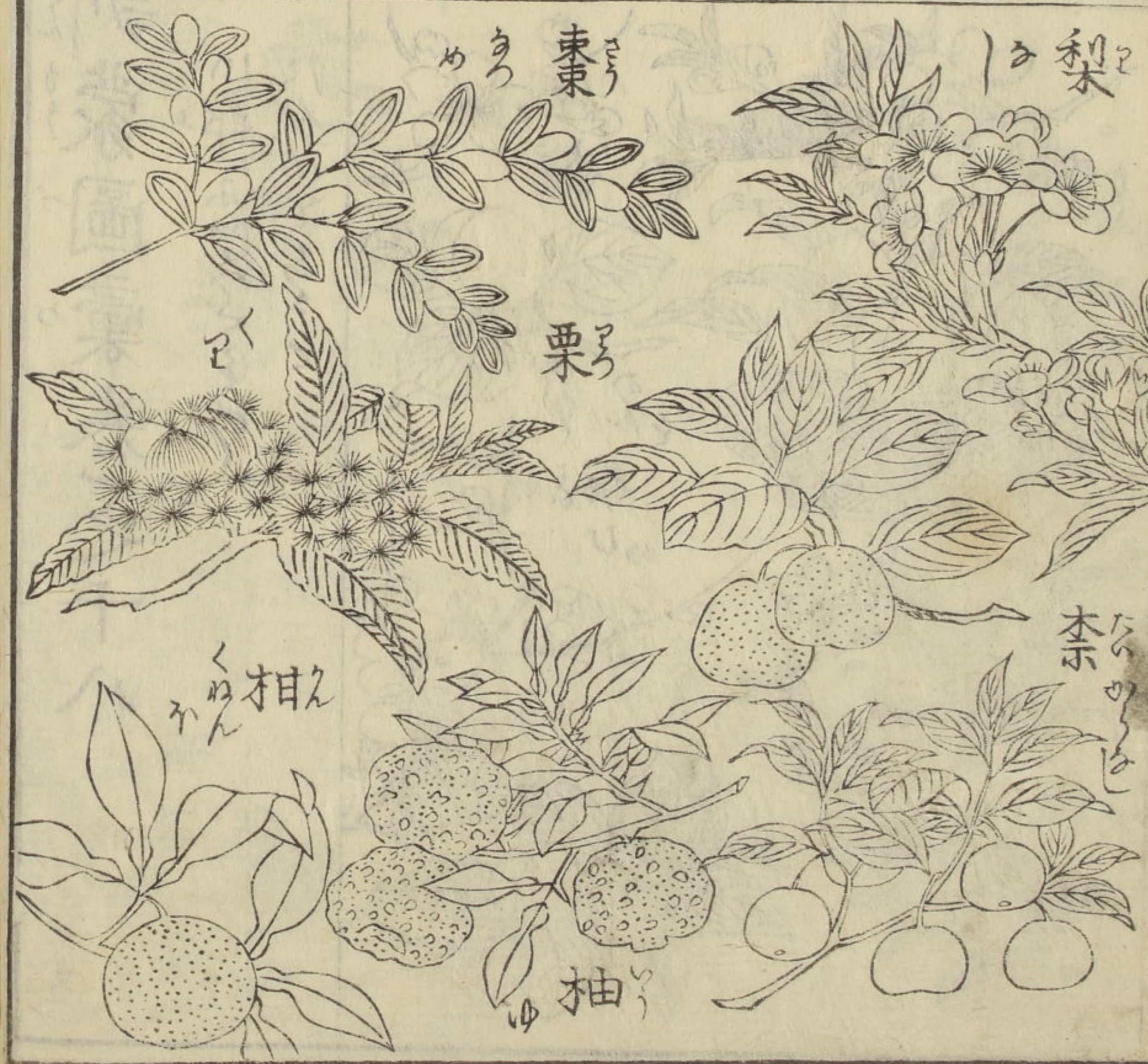
は部ふんごもの  
 たぐいとあそ

○杏のりさうあそく  
 湯瓜とあ冷熱の毒とさる  
 仁のせれととも  
 ○梅のぼくくくく歯と損  
 ぞ仁の月瓜あさうふう白  
 梅の瘡とのぞく  
 ○桃のぼくくくくは仁の瘡  
 血瓜さんど大便とつとど  
 ○李の芳熱とさうと肝病  
 食とさうとさうとさうと  
 実がさうとさうとさうと





○利ハ熱嗽とやら渴と  
 肺と消し火氣を  
 ○李ハ中焦のろくの不  
 足の氣を補ひ脾と和  
 氣を和らるる瓜を  
 ○東東ハ脾胃とやりの津  
 液と生し心腹の氣と  
 さらし心肺とさらし  
 ○栗ハ氣を和し腸胃を  
 わらし腎氣を補ひ腰脚を  
 和らるる瓜を茅栗 杞子  
 〇柚ハ食と消し酒毒と解  
 腸胃の惡氣とさらし婦  
 人孕て食とちひいと消し  
 消し



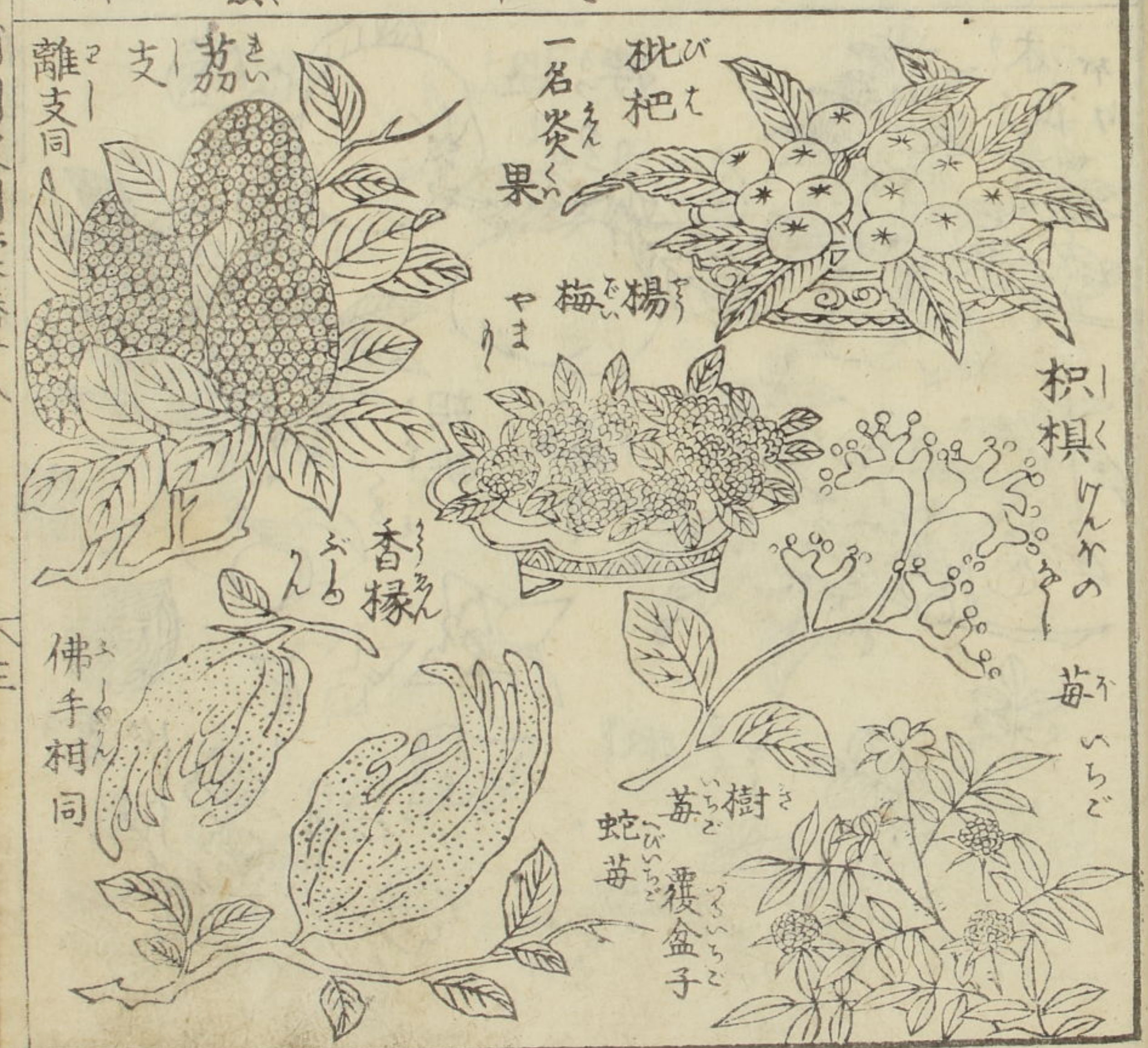
○柑ハ腸胃のろく熱毒と  
 利し穢濁とやめ小便と利  
 〇枳ハ大便とつじひのつ  
 とさらし痰と消し脾胃を  
 さらし心腹とさらし  
 ○橘ハ消渴とやら胃氣を  
 膈中のろくを消し  
 ○推ハ寸白虫と消し食と消  
 し目氣を和らるる款嗽白濁  
 とやら痔と消し  
 ○枳ハ食と利し酒毒と解  
 胃中の熱とさらし  
 ○推ハ腸胃とやりの人とな  
 て肥とやめとちひこれと  
 〇榛ハ氣力とは腸胃とま



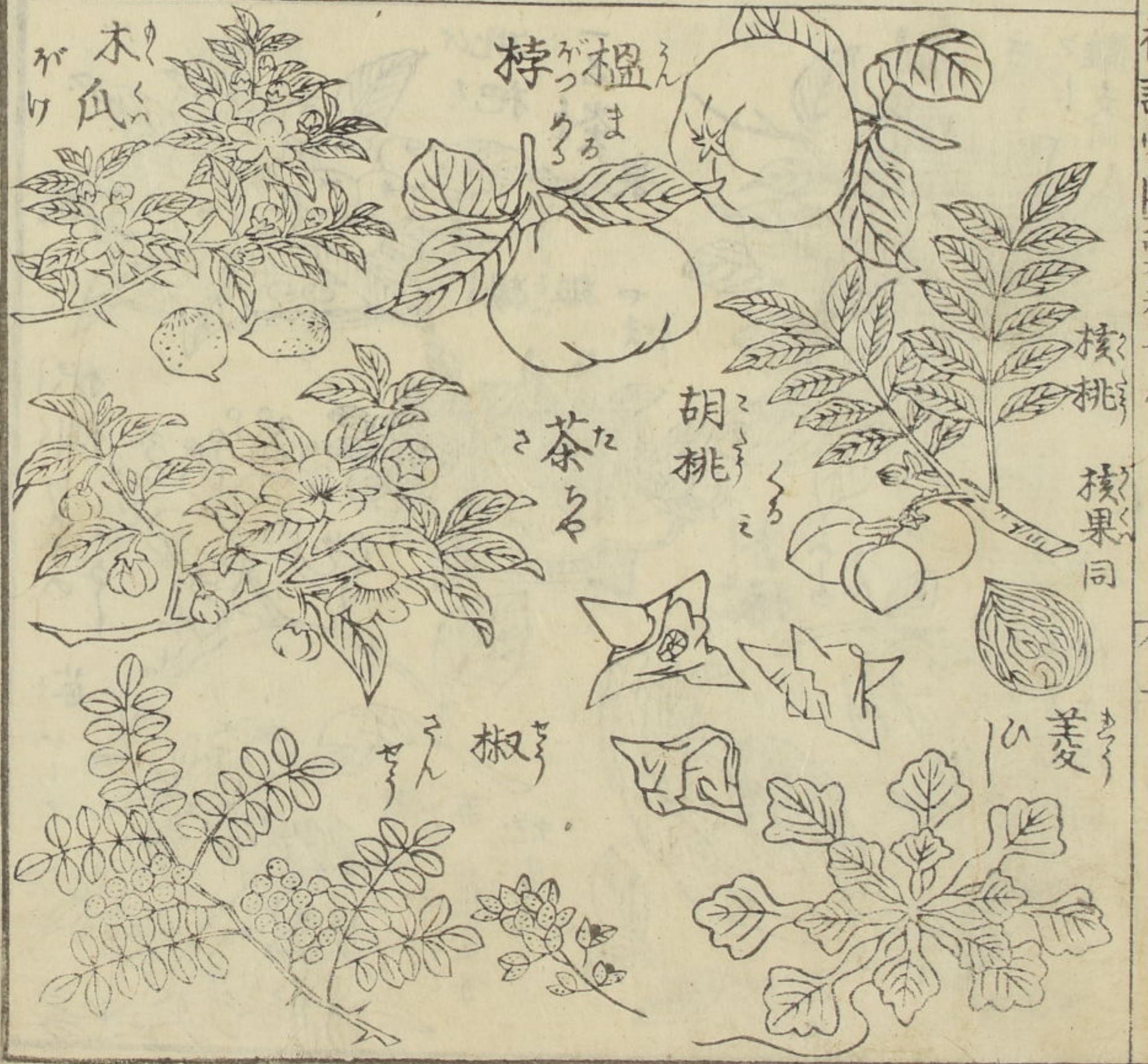
〇人とあてとちつめり思て  
 ひく  
 〇桔榴の喉のくもくと治す戸  
 虫と刺と味ひ酸其の二品有  
 〇來禽の氣とくく一瘕と消  
 〇霍乱腹の痛消渴と治す  
 〇葡萄の麻病をひくと治  
 腸間の水とのどと久しく  
 〇金柑の氣と下胸とくく  
 〇湯の氣と二日酔と治す  
 〇銀杏のけいけい酒と解  
 瘕とくく虫とくくを熱  
 〇枇杷の吐逆とくく上焦の熱  
 〇つらとくくを肺氣と利す



〇枳椇の又腸とくく大小  
 便と利酒毒と解と  
 〇楊梅の氣と下腸胃とく  
 き湯の氣と瘕とくくを  
 〇荔枝の湯の氣と瘕とくくを  
 〇荔枝の湯の氣と瘕とくくを  
 〇佛手柑の氣と瘕とくくを  
 〇胡椒の肌とくくを瘕とくくを  
 〇多食の小便と利と  
 〇枳椇の中とくくを瘕とくくを  
 〇食と消胸の間の酸水



とのどろ水海と治し酒  
 氣と散と  
 ○木瓜脚氣筋ひきつと  
 ちんらんと治と  
 ○菱中と安入臍と補ひ  
 酒毒と解し湯瓜や丹石  
 ごとと解と  
 ○茶小便と利し痰熱瓜  
 さら湯とやめ種ひりそくか  
 く食と消し目とゆらんと  
 ○椒風邪の氣は漆の中  
 とわくり女の經水と通と  
 ○胡頹瓜病と治と寒  
 熱の病小用ゆへくと  
 ○荔枝風毒と消耳目  
 明の胃とひく腸胃とわ



つ血痢と治とさく  
 ○慈姑産後ふじひとせり  
 死せし難産をさくさく治  
 ○栲棗心とまづ熱とま  
 消渴とま久く腹とま  
 歎及とま久く心  
 ○松子諸風骨痛頭痛  
 うつめらぐのさうに  
 ○龍眼(胃)とひく脾とほ  
 虚と補ひ智分とほく  
 腹とま志とほく身とま  
 うて老と  
 ○甘蔗さたりの木あり  
 よく脾胃とまあり  
 ○胡椒中とわくり瘰と去  
 腹痛とやめ口虚と治と







○檜いのこの深山しんせんのり  
補て木きとありあり泉いづみ  
の本もと具ぐ曲まがわかわか  
みみい木きとありありて  
ま上うへととと又また揖ひふ  
つららり  
○圓ま拍たの系けい栢はく中ちゆう  
て変へい松しょうふふゆる  
あつつとととと但たし  
葉は捨すててたたく  
色いろ黒くろくく皮かわの  
いちち同どう  
○榿い柳りゆう多たり  
一名いちめい兩りゆう師しとと又また  
皮かわあり



檜いのこ  
圓ま栢た  
榿い柳りゆう

○杉すぎの深山しんせんのり  
補むろりの大おほ木きと  
方かたら木き立た直ちよく小せう  
て枝えだ葉はああげげ色いろ  
あんんて毒どく瘡そうと  
洗わひ水みづに浸ひそ  
て脚あし氣け腫しゅははと  
治ちを  
○仙せん栢はくの植うののえ  
いぬぬにに似にりり変へのの形かたち  
て紙かみ合あせせるるか  
一名いちめい羅ら漢かん松しょう



仙せん栢はく  
杉すぎ







補ひりぎ 槿ひんぎの芙蓉ふふろうのえ  
 かに似にく小こう  
 爲なる紅くわ白はくのり八はち重じゆう  
 ひんのり七月しちがつ花はな  
 うく一名いちめい日ひ及およ  
 ○芙蓉ふふろうの水みづ生なま  
 ともの紙かみの芙蓉ふふろう  
 ともの荷か花はなのり本もと  
 を本もと芙蓉ふふろうといふ  
 補ほさららとともいふ  
 七八しち月がつ花はなひろく



槿えん  
ひりぎ

芙蓉ふふろう

一名拒霜きょそう

(蜀漆しやくしきの秋あき葉はの  
 花はなは花はな中ちゆうにある  
 きき実みは根ねと常とちゆう  
 山さんとの二に月げつ以もて  
 毒どくありともいふ  
 毒どくありともいふ  
 ○女貞にょていの冬ふゆといふ  
 てあらないともいふ  
 の貞ていはいくく名な  
 つく一名いちめい蠟ろう樹じゆ  
 ○冬青ふゆせいの冬ふゆ月げつ青せい  
 くみみりありともいふ  
 冬ふゆといふ名なは  
 一いちままつ



蜀漆しやくしき

冬青ふゆせい

女貞にょてい

○粉園てまりの葉はままり  
 花はな白しろくくちちをを迷まり  
 乃なこことと四よ月げつ花はなさ  
 くく玉たま綉しゅう花はなもも綉しゅう  
 迷まりりももつつのの本ほん  
 乃なここもも粉こな園えんははぬ  
 ききんん花はなののりり大だいててま  
 つつ小こででままりり二に種しゆ多た  
 ○紫むらさ湯たうはは二に月げつ花はな  
 ささくく粉こな園えんははぬ  
 りりるるここええとと紅べに白しろ  
 わわりりままままててままりりふふ  
 他たにに名なををささららせせるる  
 本ほんのの長なが三さん四し尺ふく



○薜荔びし一名いちめいとと  
 りりくくまんまんががりり  
 本ほん饅まん頭とうとといいふふ  
 鬼おに饅まん頭とうとといいふふ秋あき  
 ののここららななままああららままりり  
 ののちち中ちゆうわわりり  
 ○柘せき花はな白しろくくみみ  
 月つきののここううくくままりり花はな  
 かかららのの深ふかままにに月つきのの  
 上かみ焦あせのの熱あつとといいふふ  
 瘰れい癧びとといいふふ花はな紙し  
 笠かさ葡萄ぶどうとといいふふ



○錦帯花ニホヒナ四月

花ハナさく楊ヤウ檀タンの池

て花ハナの葉ハのいろ小こ文ぶん

かり花ハナ園えんゆまの

白しろく後のちは赤あかく改かへ

○楊ヤウ檀タンの葉ハのいろ

かく花ハナも小こく木きの

葉ハのいろをむらによ

一ひと葉はの葉はとかせ

空くう疏そ同どう

○棘いばらの山野やまの小こ花はな

頭書抄補訂蒙園集卷十九



錦帯花にひな

やまうらぎ

楊檀やうたん

うらぎ



棘いばら

角かく楸きゅう

わづら  
あつら  
ひんた

木き楸きゅう

つた



えりえりとと久くくく葉はのいろ

ささ又また月つき白しろく花はなのいろ

棘いばら刺さ棘いばら並なら同どう

○角かく楸きゅうの葉ハのいろ

ききととつつ葉はのいろ

ののここくく細こまかくかく葉はのいろ

ととああとと冬ふゆ着きるる葉はのいろ

て角かくかかのいろ

○木き楸きゅうの五月ごご六月ろくごの

白しろく花はなのいろ

ああとと熟じやくすす葉はのいろ

葉はのいろ

頭書抄補訂蒙園集卷十九

○櫻桐六七月

黄白花さね八九

月に実成じよ

此本補の毛糸

を帯につら

○黄楊補の葉

かくくく花より

ど実めくど四季

ちんばむと木細

くくくはま也

頭書増補言海區厚十九

七



櫻桐

黄楊

○衛矛補の三月ふ

莖瓜せとちり

三四尺なる補杖の

と紅毛ふとまき

葉のねのめさ相

わり今ふふと

一名鬼笠

○鐵蕉補の蘓鉄

カリ補一名鳳尾焦

とくつ琉球補より

知ると番焦と云

鐵蕉

衛矛



頭書増補言海區厚十九

七



○桐の葉はつら  
四月花さく白  
房はつらつら  
あり箱をうつる  
には木が月  
○梧桐の皮は  
ふしかりま  
胡椒のごく  
にはあをた  
ふしそま  
○榧同  
榧の葉はつら



に似る  
又栗ふしを  
と榧実とつら  
ふだんがら  
本うらま  
てふたかり  
○榧一名樸榧  
とつらま榧  
みつらつら  
その品類  
本うらま  
に似るなり



○藥ハ葉采吳葉葉  
 小何くろく冬冬介ま  
 び皮をく白くく  
 黄多り黄葉と  
 〇紫荊ハ葉と皮  
 かして花は  
 きあうまはひ  
 死秋美のる美と  
 紫珠とつ  
 〇石南ハ石の石湯  
 に向ハ石はま  
 石南ハ石湯と云  
 葉批把のあ



〇狗骨ハ本の  
 へらうて狗の骨  
 乃如く物  
 つつ又於本も  
 書かん  
 〇瑞香ハ葉厚  
 美花きく  
 香のくく久美白  
 出多り  
 〇接骨ハ小便と  
 通ハ水腫と治ス  
 一名本菴菴  
 〇豆の痛  
 葉ハ



本草綱目補遺 卷之十一

本草綱目補遺 卷之十一

○桑一切の風氣  
 と治し中風痲  
 氣瓜ふくし瘰癧  
 消し胃瓜ひく  
 き食とちと  
 補棟葉槐のご  
 く二四月小たご  
 為は長久し俗  
 せんがんよま更瓜  
 金棟子くく  
 ○五加の荒よつく  
 つてくく皮膏  
 の風湿とろ五  
 佳五花同



棟のち  
 せんん

五加  
 き

桑

○枸杞の皮膚骨  
 節の風氣と熱  
 毒とろとろの脂  
 せうんせ  
 ○紫薇の花わと  
 かるく月さく百日  
 補作ふくくと  
 るくくと  
 ○樟の楠ふく  
 四季あがまると  
 細さ花き楠本  
 び類かり大木  
 ぬら敷年とるて  
 真本石とる



枸杞  
 く

樟  
 くと

紫薇



○石檀シタンの葉エハ規ノリ小コ細ホソく  
 同皮ドウヒと秦皮シンヒとト同ト  
 ○合歡カクワンの五月ノイチゴより  
 花ハナうハ久ク紅ベニ白シロ也ナリ  
 實ミ小コうウやリわリ葉エハ  
 昼ヒルのミきてテ痰タン茶チャ  
 じツろク一名イハレ夜合ヤカヘ  
 樹ツキとツツツ  
 ○榆ユ赤アカ白シロ二種ニシュ有アリ  
 三月ノサツ小コ葉エハとトせセどドうウ  
 いろイロ淡タンのノいイ色シキ  
 一ヒト葉エハとト榆ユ葉エハ榆ユ枝エダ  
 とトツツ



榆木  
小葉

石檀  
細葉

合歡  
移心  
の  
葉

○葉エハのノ木キのノえエかりカ  
 類ルイ葉エハとト紅ベニ葉エハ  
 みミしシてテ落ラク葉エハとトしシ  
 病ヤマイ葉エハとトしシ  
 ○株クサのノさサらラりリ俗ソコ  
 みミつツくクふフかカんンとト去キにニ  
 入イとト根ネとトいイふフとト出デ  
 るル瓜ウリ株クサとトしシ  
 ○藥ヤクのノ木キのノこコろロをヲ  
 へヘのノ事コト多タりリ拵テ不フ  
 多タくクびビ同トウ  
 ○芽メのノ草クサのノちチりリ  
 つツつツふフつツふフのノ前マエ芽メとト  
 もモつツふフとトしシとトしシ



寄生  
薬

葉

芽

株

○楊の葉白青  
赤の四種あるは白  
揚の葉まろく赤  
揚の葉かぎり赤  
揚の葉くろく  
揚の葉くろく  
揚の葉くろく  
○寄生の諸木  
わり枝のる本は  
まふせる本は  
木ふりて名は  
こふ本とも  
○柳の垂條は



楊の葉花白柳  
繁の柳のまかり  
○槐の葉はく  
黄少して久と  
ひふ用のふ槐  
まると槐角といふ  
○棕株同一名即  
來といふ葉は  
て物瓜みかてつ  
をいふ  
○梅檀の葉槐のご  
とく皮青く黄檀



白檀紫檀赤檀

黒檀のこめらあを

加羅沈香この木

朽てあるかり

○皂莢の葉槐

似たり枝ふらふ

其やちく黄なる

為候皂角子た書

○柴の小本散財

なる俗ふを

○薪の粗と薪と云

と云りかたは瓜蒌と

とつふつまぎ

○竹の干一種あり

六十のちて一夜

乾いた葉のり枯る

是と志録ん入と

つゝたかさめり

とつふ指をそれい

せと

○竹の葉同

食とまの膈と刺

痰と消し胃と

やふし水道を通

本草綱目卷之九

皂莢

槐

槐

槐

槐

槐

槐

槐

槐

槐

槐

槐

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

梅檀

柴

柴

柴

柴

柴

薪

薪

薪

薪

薪

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

加羅

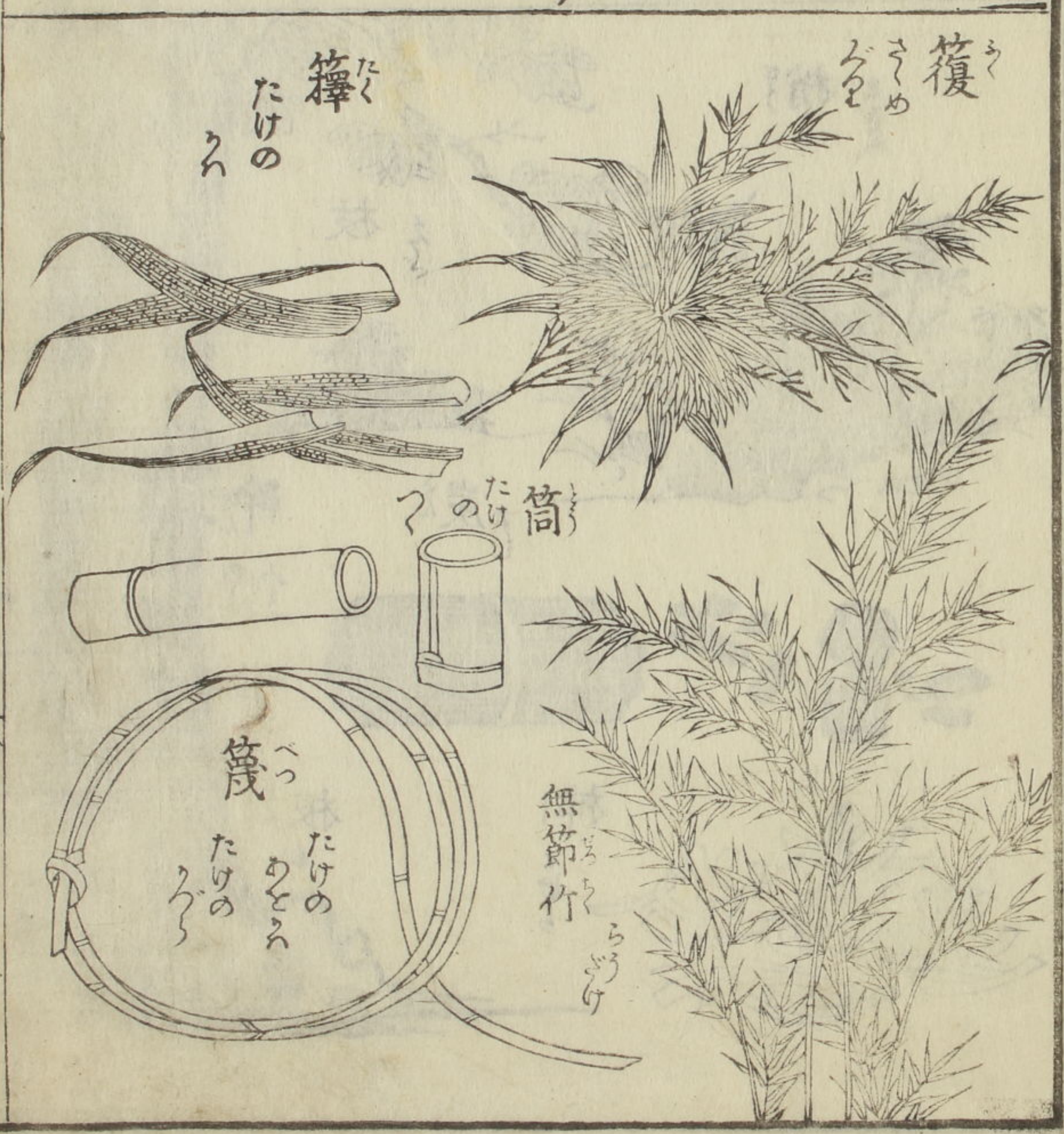
加羅



みどりさき  
 ○無節竹さき  
 のらういりらゆか  
 竹さき  
 ○竹復さき  
 竹の葉のさき  
 竹葉とら俗さき  
 志移んとして竹の節  
 方んと葉の中は葉  
 のさきわわり  
 ○竹擇竹のさき  
 又竹皮とも竹皮と



もつ  
 ○筒へたけのほ  
 筒同竹節とけ  
 のふりわり  
 ○蔑へたけのわを  
 俗さき俗さき  
 篋竹均同  
 ○幹へたけのわを  
 俗さき俗さき  
 ○根へたけのわを  
 根同本とも  
 ○枝へたけのわを



本草綱目卷之六

柯 同リと云ふ事  
 條 同リと云ふ事 樹の  
 梢 同リと云ふ事  
 ○ 梢の本のこずき  
 抄 同  
 ○ 炭のあつと云ふ事  
 烏 銀とも云ふ事 炭  
 削 同  
 ○ 柿のこむら 梢の  
 きのこむら 鋸末と  
 おらんとかう



頭書 増補 神皇正統記 卷之九

七

